

## 平成28年・大阪支部「春季歴史探訪の会」開催報告 (開村半世紀を経てますます内容充実の「博物館 明治村」を探訪)

今回の探訪行は、明治建築を保存展示する野外博物館として半世紀前に開村した愛知県、犬山市にある「博物館 明治村」です。去る5月28日(土)バスにて大阪を出発し名神高速道を経て現地に。

今回は常にもましてご夫婦でのご参加が多く、総勢27名の内9組18名の華やかな一行となりました。

車中ではA46 岡崎格郎氏を煩わせ、書下ろしの資料を使って、単なる見所紹介に終わらずに、幕末から明治期にかけての建物の変遷と明治村に移設された代表的な建物の要点や関係人物などのお話があり、中でも我が名工大の前身、名高工の初代校長であり、関西建築界の父とも謳われた武田五一先生設計による兵庫県・西宮市の「芝川又右衛門邸」が阪神・淡路大震災で被災した後 2007年に明治村に再建された話に及ぶなど、貴重な予備知識の時間となりました。このあと、明治村のシンボル、ライト氏設計の帝国ホテル中央玄関にまつわるDVDを車内テレビで視聴してもらっている間にはや現地に到着。

昼前とあってすぐに正門前の昼食会場「明治村ホール」へ。せっかく明治村を訪れたので相応しい食事をという事で「諭吉 牛鍋御膳」を注文。甘辛い名古屋味噌仕立ての牛鍋に、男性陣には学生時代の懐かしい味が思い出されたことでした。食後、ツアーガイドさんの案内で村内へ。見学案内は2丁目に始まり4丁目、最終目的地5丁目の「帝国ホテル中央玄関」までのコース。敷地面積約100万㎡、南北1,100m、東西600mと広い敷地に開村当時は15件にしか過ぎなかった建物も、今では11件の国指定重要文化財を含む大小67件の建物が点在しているので、現在では村内の建物に1～5までの「丁目」と「番地」が付けられ見学しやすくなっている。

我々は先ずは2丁目からと、重要文化財である擬洋風建築の「東山梨郡役所」や名古屋市にあった木造三階建て「東松家住宅」などを左右に見ながらレンガ通りを下って行くと、左手の「安田銀行会津支店」内に明治体験処“ハイカラ衣装館”があり、矢絣に緑の袴姿に変身した女子大生が写真を撮り合っている風景も見られた。通りを下りきったところは動態保存されている京都の市電、いわゆる“チンチン電車”の通る電車で京都七条駅があり、その前の「京都七条巡査派出所」には、当時の服装をした巡査が立哨しており、我々に帽子を被せてくれて一緒に写真に納まるサービスぶりであった。



4丁目は5丁目と並び一番建物の多いゾーンで「本郷喜之床」「半田東湯」に加えて大阪・池田の「呉服座」(重文)のような庶民的な建物から「日本赤十字社中央病院病棟」「歩兵第六連隊兵舎」など公的な大きな建物まで見る事ができた。





5丁目に入ると数ある建物の中でも、当村のシンボリック的存在である「帝国ホテル中央玄関」が一番の見所であり、緩やかな敷石の道を上って行くと木立に囲まれた建物の上部が徐々に姿を現し、期待をいやがうえにも高めてくれ、上り詰めると池を前にした宇治平等院鳳凰堂をモチーフとし日本の建築資材である大谷石を多用した、威風堂々としたホテルの玄関に目を奪われる。玄関部分だけとはいえ、明治村最大の建物には圧倒される。当建物はフランク・ロイド・ライト氏の設計になり、関東大震災と同年の1923年に竣工したものだが、同地震によっても殆ど損傷しなかったといわれている。その

後、同ホテルの建て替え構想が発表されると、日・米両国で保存を求める声が高まり明治村に再建することとなり、今我々が目にすることができているわけである。内部のロビーも“すだれ煉瓦”といわれたスクラッチタイルや大谷石が多用されている。ボランティアさんの演奏する二胡の音を聞きながら、ロビー二階の喫茶室でゆっくりお茶も楽しめた。ここでツアーは一旦解散し、見残したところを自由に見学しながら、帰りのバスが待つ正面を目指すことにした。

3丁目、1丁目を見残しているの重点的にみることにし、3丁目では、明治村に面した日本でも有数のため池「入鹿池」を望む岬にある洋式燈台「品川燈台」(重文)「菅島燈台付属官舎」(重文)など、1丁目では西郷隆盛の弟で政府の要職を歴任した西郷従道の接客用の本格的洋館にして、半円形に張り出されたベランダや上下階の特徴的なデザインの手すりなどを備えた「西郷従道邸」(重文)や間口54mの大きな建物で、玄関を軸に左右対称、正面側に二層ベランダを廻らせた、当時の官庁建築の典型「三重県庁舎」(重文)などを見て切り上げることに。明治という時代の空気をたっぷりと味わった満足感を胸に帰阪の途についた。

(記:藤原康宏 E36)



名古屋工業会大阪支部 平成28年春季歴史探訪の会

「博物館・明治村」旧帝国ホテル正面玄関前にて 平28.5.28